NIE実践報告

1．タイトル：**情報手段としての新聞の利用**

2．学校名

大阪府立香里丘高等学校

3．実践者名（代表者名）

吉田裕紀

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

日本史　　240人

6．単元（本時の学習課題）名

情報手段としての新聞の利用

7．目標(狙い)

新聞が身近な情報源であることを認識させると共に、情報を伝える手段としての新聞のあり方に気づかせ自らも情報発信者として新聞の発信方法などを認識させる。

8．評価の視点

新聞が情報源であることに気づいているか。情報発信の手段として新聞を利用しているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

実践の概要

①その日の新聞を読む…授業の冒頭に、教員がその日の新聞記事から生徒に読ませたい記事を紹介する。生徒が新聞記事を選んで紹介することのあるが、その場合には記事的な偏りが生じてしまう。そのため、教員が新聞から読ませたい記事を選んで、授業の冒頭に増す刷りして読ませる。その際に記事についての解説、その記事をどのように捉えるかなどをコメントする。

②新聞作り「わがまち新聞コンクール」への参加…財団主催の新聞コンクールに応募させる。普段見慣れている新聞を自らが作ることによって、情報を集約し発信することの難しさを実感させる。初年度は、特別な指導をせずに応募させると、中には、自分なりに工夫をする生徒が現れた。2年目は、新聞の形を意識させるために、事前に指導を行ったが、2年目ということもあり新聞らしくなった。

③「新聞が運んだHappy News 2007」への応募…実践で購入可能な新聞を空き教室に置き自由に閲覧に切り抜きをできるようにした。各自で新聞記事を選ぶのであるが、学校に切り抜きをできる部屋を作ると、そこで選ぶ基準が人それぞれであることに気づくことができたようである。また、記事選びを通して意見交換もで

11．児童・生徒の反応、感想・意見

授業の冒頭の新聞読みを楽しみにしてくる生徒が現れた。中には、自分なりに先生が選んでくる記事を予想してくるもの現れ、新聞に対する意識が高まった。

12．成果と課題

授業の冒頭での記事紹介は、新聞を身近な情報源と感じることができたようである。特に今年は、『命』をテーマに記事を選んで提示するようにすると、後半は、その記事を読み込む生徒が増えてきた。今後は、そのような記事を読み、さらに自らの考えをまとめ、そして発信させる取り組みが必要かと考える。